

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	33	入居時や身体面の変化があった際にはグループホーム職員の方で主治医と連携を取りながらご家族様と病状や終末期の意向確認を行っているが、主治医と家族、職員が同席にて詳しい終末期ケアの方向性を話し合う機会は少ない。	各利用者様の状態に合わせて、ご家族様と主治医、職員が同席して終末期ケアの方向性について話し合いを行い、安心して終末期を迎えられるような体制作りを行う。	各利用者様の現在の状態について再度各主治医と確認を行い、早い段階でご家族様と主治医、職員で話し合いの機会を持つ。その際は終末期についてのご家族様の意向を十分確認し、看取りについての記録を専用の書面にて残すようにする。	12 か月
2	35	地域合同にて地震想定避難訓練を実施しており、近隣の方は大勢参加して下さっているが高齢の方が多く、協力体制が築ける状態までは至っていない。	近隣の方だけでなく視野を地域に向け、社会福祉法人としてお互いに協力し合えるような関係を築く。	地域合同の避難訓練は回数増加を検討しながら継続して行っていく。また社会福祉法人として地域に協力できることを再検討し、地域合同防災連絡協議会の立ち上げを提案し、地域全体で協力体制が築けるような取り組みを行っていく。	12 か月
3	49	毎月少なくとも1回以上の外出支援を行っており、今後回数を徐々に増やしていきたいが、特定の方だけに偏ってしまったり、体調が安定していない方への頻回な外出支援が困難である。	毎月1回以上の外出支援は今後も継続した上で、近距離や体調に合わせて近距離での外出を頻回に取り入れていきたい。	外出に合わせて職員の勤務や流れの調整が必要のため、当日の変更や調整が困難なことが多い。まずは敷地内にある喫茶室や駄菓子屋、小料理屋へゆくりと出かける機会を設ける。小料理屋や喫茶室ではご家族様とゆくり過ごす機会を職員の方からも提案していく。	12 か月
4					か月
5					か月

注) 項目の欄については、自己評価項目の№を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。